表３：測定結果（３回目）

表３-１ ：プライマーセット1（N1）

Sample ID		判定結果	Ct value
1	1-5	陽性	31.9
	1-6	陽性	31.4
2	2-5	陽性	36.6
	2-6	陽性	36.6
3	3-5	陽性	30.0
	3-6	陽性	30.0
4	4-5	陽性	38.1
	4-6	陽性	38.0
5	5-5	陽性	33.3
	5-6	陽性	33.0
6	6-5	陰性	40<
	6-6	陰性	40<
7	7-5	陽性	34.4
	7-6	陽性	35.0
陰性対照	NC-5	陰性	∞
	NC-6	陰性	∞
陽性対照	PC-5	陽性	35.9
	PC-6	陽性	35.8

ベースライン補正、Thresholdラインの設定およびＣt値の算出はQS5Dxソフトウエアによる自動設定にて行った。算出されたCt値が40サイクル以下の場合を陽性とし、40サイクルを超える場合もしくは増幅がなくCt値が算出できない場合を陰性とした。
6-6は増幅曲線は確認できたが、Ct値が40以上であったため、陰性と判断した。

表３-２：プライマーセット2（N2）

Sample ID		判定結果	Ct value
1	1-5	陽性	30.6
	1-6	陽性	30.0
2	2-5	陽性	36.0
	2-6	陽性	35.8
3	3-5	陽性	28.8
	3-6	陽性	28.8
4	4-5	陽性	37.2
	4-6	陽性	37.1
5	5-5	陽性	32.1
	5-6	陽性	31.9
6	6-5	陽性	39.2
	6-6	陰性	40<
7	7-5	陽性	33.1
	7-6	陽性	34.0
陰性対照	NC-5	陰性	∞
	NC-6	陰性	∞
陽性対照	PC-5	陽性	34.8
	PC-6	陽性	34.8

ベースライン補正、Thresholdラインの設定およびＣt値の算出はQS5Dxソフトウエアによる自動設定にて行った。算出されたCt値が40サイクル以下の場合を陽性とし、40サイクルを超える場合もしくは増幅がなくCt値が算出できない場合を陰性とした。
6-5はプライマーセット1は陰性であったが、プライマーセット2は陽性となった。しかし、Ct値は40に近い値であることから、Sample6は検出感度近傍の検体であることが考えられた。